



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2023/06/06
SDS整理番号 03232132

製品等のコード : 0323-2132

製品等の名称 : 3-(クロロメチル)ピリジン塩酸塩

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
有機合成原料、合成中間体、医薬・医薬中間体、はんだフラックス など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

可燃性固体 : 区分に該当しない
自然発火性固体 : 区分に該当しない
自己発熱性化学品 : 区分に該当しない
水反応可燃性化学品 : 区分に該当しない
金属腐食性化学品 : 区分1

健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 区分4
皮膚腐食性/刺激性 : 区分1C
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分1

注意喚起語: 危険

危険有害性情報

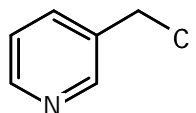
金属腐食のおそれ
飲み込むと有害(経口)
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
重篤な眼の損傷

注意書き

【安全対策】

他の容器に移し替えないこと。
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

【応急措置】

飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせない。気分が悪い時は医師に連絡すること。
吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。
眼に入った場合: 水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

・HCl

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。

【保管】

耐腐食性/耐腐食性内張りのある容器に保管すること。
日光を遮断し、容器を密閉し冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	:	化学物質
化学名、製品名	:	3-(クロロメチル)ピリジン塩酸塩 (別名) 塩酸3-(クロロメチル)ピリジン、 クロロ(3-ピリジル)メタン塩酸塩、 3-ピコリルクロリド塩酸塩、 3-(クロロメチル)ピリジニウムクロリド、 塩化3-(クロロメチル)ピリジニウム、 3-クロロメチルピリジン=モノヒドロクロリド (英名) 3-(Chloromethyl)pyridine hydrochloride、 3-Picolyl chloride hydrochloride、 3-Chloromethylpyridine monohydrochloride、 3-(chloromethyl)pyridinium chloride (EC名称)
成分及び含有量	:	3-(クロロメチル)ピリジン塩酸塩、98.0%以上
化学式及び構造式	:	C5H4NCH2Cl·HCl、C6H6ClN·HCl、C6H7Cl2N、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	164.03
官報公示整理番号	化審法	未登録 「3-(クロロメチル)ピリジン」 (1)-215 「塩酸」
	安衛法	8-(1)-1855 「3-クロロメチルピリジン=塩酸塩」
CAS No.	:	6959-48-4 <参考> 3-(クロロメチル)ピリジン : 3099-31-8 塩 酸 : 7647-01-0
TSCA イベントリ	:	未登録
EC イベントリ	:	登録済 (230-150-4)
危険有害成分	:	3-(クロロメチル)ピリジン塩酸塩

4. 応急措置

吸入した場合	:	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
皮膚に付着した場合	:	直ちに医師に連絡する。 直ちに皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は、医師の手当を受ける。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	:	直ちに医師に連絡する。 直ちに水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。 まぶたを親指と人さし指で広げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。 その後も洗浄を続ける。
飲み込んだ場合	:	眼の刺激が持続する時は、医師の診断、治療を受ける。 直ちに水で口をすすぎ、うがいをする。無理に吐かせてはいけない。 吐かせると再びのどや食道を通り二重に刺激・損傷を受けることになる。 直に牛乳や卵を飲ませて毒性を希釈する。 牛乳、卵がない時は、コップ数杯の水を飲ませ、体内で毒性を薄める。 意識がない時は、何も与えない。もし、嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないように、頭を尻より下に身体を傾斜させ、肺への還流を防ぐ。嘔吐後、意識が戻れば、水を飲ませる。体の保温に努め、速やかに医師の診察を受ける。 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。

予想される急性症状及び遅発性症状：情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	:	本製品は可燃性である。 散水、噴霧水、泡消火剤、二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂など 大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
使ってはならない消火剤	:	棒状放水(腐食性物質のため、棒状放水は使用しない。)

- 特有の危険有害性 : 火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
消火水は環境汚染を引き起こすおそれがある。
- 特有の消火方法 : 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する
安全に対処できるならば着火源を除去すること。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
風上より消火し、環境へ流出しないよう漏洩防止処置を施す。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、適切な空気呼吸器を含め適切な防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 :
漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。
粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
風上に留まる。
低地から離れる。
- 環境に対する注意事項 : 河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。
回収、中和 : 漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。
漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。
回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 :
二次災害の防止策 : 危険でなければ漏れを止める。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
近くに裸火源、発火源があれば、速やかに取除く。
事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。

7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い
技術的対策 : 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
粉じん、ミスト、蒸気などの発生を防止する。
粉じんの堆積を防ぐ。
- 局所排気・全体換気 : 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
安全取扱い注意事項 : 裸火厳禁。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
接触、吸入又は飲み込まない。
皮膚、粘膜等に触れると、炎症を起こすことがある。
目や口に入ると刺激を受けることがあり、使用の際には十分気を付ける。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。
他の容器に移し替えない。
物的被害を防止するためにも流出したものを吸収する。
- 接触回避 : 炎、火花、湿気、水または高温体との接触を避ける。
- 保管
技術的対策 : 保管場所には換気装置を設置する。
保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。
- 混触危険物質 : 強酸化剤（硝酸塩、塩素酸塩、過酸化剤、過塩素酸塩など）、強アルカリ
保管条件 : 高温多湿を避け、乾燥した冷暗所（1~25℃）に保管する。
光のばく露により変質するおそれがあるため、遮光した容器を使用するか日光、室内光を避け、暗所に保管する。
開封後は密栓する。
可燃性であるので、火気に注意する。
混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
耐腐食性/耐腐食性内張りのある容器に保管する。
- 容器包装材料 : ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラスなど

8. 暴露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない。
許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標） :
日本産衛学会 : 設定されていない。
ACGIH : 設定されていない。
- 設備対策 : この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。

	取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	: 呼吸器保護具(防じんマスク)を着用する。
手の保護具	: 保護手袋(ニトリル製、塩化ビニル製など)を着用する。
眼の保護具	: 眼の保護具(ゴーグル型保護眼鏡)を着用する。
皮膚及び身体の保護具	: 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて顔面用の保護具、長靴を着用する。
衛生対策	: 取扱い後はよく手を洗う。 取り扱い中は飲食、喫煙はしない。 汚染された作業衣は作業場から出さない。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	
性状	: 結晶～粉末
色	: 白色～類白色
臭い	: わずかにアミン臭
pH	: 酸性(水溶液)
融点	: 144
凝固点	: データなし
沸点	: データなし
引火点	: データなし
可燃性	: 可燃性
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: データなし
相対ガス密度(空気 = 1)	: データなし
密度又は相対密度	: データなし
比重	: データなし
溶解度	: 水に溶ける。
オクタノール/水分係数	: データなし
発火点	: データなし
分解温度	: データなし
粘度	: データなし
動粘度	: データなし
粒子特性	: データなし

GHS分類

可燃性固体	: 易燃性を有せず、また、摩擦により発火あるいは発火を助長する恐れがなく、さらに、国連危険物輸送勧告(UNRTDG)のクラス4.1(可燃性固体)にも該当しない非危険物であることから、区分に該当しないとした。
自然発火性固体	: 常温の空気と接触しても自然発火しないことから、区分に該当しないとした。
自己発熱性化学品	: 空気との接触により自己発熱性がなく、さらに、国連危険物輸送勧告(UNRTDG)のクラス4.2(可燃性固体)にも該当しない非危険物であることから、区分に該当しないとした。
水反応可燃性化学品	: 本品は水に可溶であり、水に対して安定である(水との混触で可燃性ガスの発生がない)と考えられるので、区分に該当しないとした。
金属腐食性化学品	: 本製品は酸性の塩素化合物で金属に対し腐食性があり、国連危険物輸送勧告(UNRTDG)クラス8(腐食性物質、UN3261)に分類されていることから、区分1とした。 金属腐食のおそれ(区分1)

10. 安定性及び反応性

安定性(反応性・化学的安定性)

	: 通常に取扱条件において安定である。 使用後は容器を密栓する。 光により変質するので、遮光保管する。
危険有害反応可能性	: 可燃性であるので、火気に注意する。 金属(特に銅及び軽金属類)を腐食する。 強酸化剤と混触すると激しく反応することがある。 強アルカリと混触すると反応することがある。
避けるべき条件	: 日光、光、高熱、湿気、火気
混触危険物質	: 強酸化剤、強アルカリ
危険有害な分解生成物	: 燃焼で熱分解すると、一酸化炭素、窒素酸化物、ハロゲン化物、二酸化炭素ガスを発生する。

11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 ラット LD50=316mg/kg 飲み込むと有害(区分4) 経皮 分類できない。
------	--

皮膚腐食性/刺激性	: 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷(区分1C)
眼に対する重篤な損傷/刺激性	: 重篤な眼の損傷(区分1)
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 分類できない。
生殖細胞変異原性	: 分類できない。
発がん性	: 分類できない。
生殖毒性	: 分類できない。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 分類できない。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 分類できない。
誤えん有害性	: 分類できない。

吸入(蒸気) 分類できない。
吸入(粉じん) 分類できない。
知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際評価機関の報告がないため、分類できないとした。

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期(急性)	: 分類できない。
水生環境有害性 長期(慢性)	: 分類できない。
残留性・分解性	: データなし
生物蓄積性	: データなし
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。 都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処理を委託する。 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。 必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。 (参考) 燃焼法 可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉(おが屑)等に吸収させて、アフターバーナー及びスクラバー付き焼却炉の火室で出来るだけ高温(ダイオキシン発生抑制のため850 以上)にて焼却する。
汚染容器及び包装	: 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 154

国際規制

海上規制情報(IMO/IMDGコードの規定に従う)

UN No.	: 3261
Proper Shipping Name	: CORROSIVE SOLID, ACIDIC, ORGANIC, N.O.S. (3-(chloromethyl)pyridinium chloride)
Class	: 8 (腐食性物質)
Sub risk	: -
Packing Group	: III
Marine Pollutant	: No (非該当)
Limited Quantity	: 5kg

航空規制情報(ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う)

UN No.	: 3261
Proper Shipping Name	: Corrosive solid, acidic, organic, n.o.s. (3-(chloromethyl)pyridinium chloride)
Class	: 8
Sub risk	: -
Packing Group	: III

国内規制

陸上規制情報(特段の規制なし)

海上規制情報(船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等)

	を定める告示に従う)	
国連番号	: 3261	
品名	: その他の腐食性物質 (有機物、固体、酸性のもの)	
クラス	: 8	
副次危険	: -	
容器等級	: III	
海洋汚染物質	: 非該当	
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類	: 非該当	
少量危険物許容量	: 5kg	
航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)		
国連番号	: 3261	
品名	: その他の腐食性物質 (有機物、固体、酸性のもの、他に品名が明示されているものを除く。)	
クラス	: 8	
副次危険	: -	
容器等級	: III	
少量輸送許容量物件	: 5kg	
許容量	: 5kg	
特別の安全対策	: 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしない。他の危険物のそばに積載しない。必要に応じ移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。	

15. 適用法令

労働安全衛生法	: 非該当。 なお、令和6年4月1日、令和7年4月1日及び令和8年4月1日施行の表示・通知対象物の追加物質にも該当しない。
毒物及び劇物取締法	: 非該当
消防法	: 非該当
化学物質排出管理促進法 (PRTR法)	: 非該当 [2023年 (R5年)4月1日施行にも非該当]
船舶安全法	: 腐食性物質
航空法	: 腐食性物質
水質汚濁防止法	: 生活環境項目 (施行令第三条第一項) 「水素イオン濃度」 〔排水基準〕・海域以外の公共用水域に排出されるもの 5.8以上8.6以下 ・海域に排出されるもの5.0以上9.0以下 「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」 〔排出基準〕160mg/L 以下 (日間平均 120mg/L 以下) 「窒素の含有量」 〔排出基準〕120mg/L 以下 (日間平均 60mg/L 以下) (注) 排出基準に別途、条例等による上乗せ基準がある場合はそれに従うこと。
輸出貿易管理令	: キャッチオール規制 (別表第1の16項) HSコード: 2933.39 第29類 有機化学品 ・輸出統計番号 (2023年4月版): 2933.39-000 「複素環式化合物 (ヘテロ原子として窒素のみを有するものに限る。) - 非縮合ピリジン環 (水素添加してあるかないかを問わない。)を有する化合物: その他のもの」 ・輸入統計番号 (2023年4月1日版): 2933.39-220 「複素環式化合物 (ヘテロ原子として窒素のみを有するものに限る。) - 非縮合ピリジン環 (水素添加してあるかないかを問わない。)を有する化合物: その他のもの - 3 その他のもの」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献	: 化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ 労働安全衛生法MSDS対象物質全データ 化学物質の危険・有害便覧 化学大辞典	化学工業日報社 化学工業日報社(2007) 中央労働災害防止協会編 共同出版
------	--	---

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

3-(クロロメチル)ピリジン塩酸塩

改訂日:2023/06/06

安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM	
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。